

東京キリストの教会 QT シリーズ ペトロの手紙

第一週 2020年8月24日～8月30日

福音書の中のペトロ

QT シリーズ一週目は、福音書の中のペトロを見ていきます。特にイエスとペトロとの個人的な対話が行われた場面を取り上げていきます。イエスとペトロの考えや思い、態度を考察しながら、神様のメッセージを深めていきましょう。

<8月24日(月) ペトロの召命 ルカ 5:1-11>

(マタイ 4:18-22、マルコ 1:16-20、ヨハネ 1:35-42)

イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。イエスは、二艘の舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。そこでイエスは、そのうちの一艘であるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。そして、漁師たちがその

とおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

解説

このガリラヤ湖では、漁は夜行われるもので、夜、漁火を使って行わなければ魚は取れませんでした。しかしイエスは朝、深みに漕ぎ出すよう弟子たちに言いました。この言葉はまさに「わたしを信頼せよ」との言葉でした。自分の力、知恵、経験、自分自身を拠り所とする歩みから、主イエスに信頼し生きていく招きの言葉でした。聖書が言う「罪」とは「ハマルティア」という言葉で、的外れという意味です。神に背き、自分を中心として、自分の知恵、経験、力のみにより頼んで生きる高慢さです。人の力のみ頼み、一生懸命に生きていても、ずれてしまい、空しいのです。ペトロは、イエスに信頼し、網を下ろしました。イエス

に自らを委ねたのです。すると、驚くべきほどたくさんの魚が入ったのです。

質問

・ペトロが「先生、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えました、その後のやり取りを含めてペトロはイエスの力を信じていましたか？

・ペトロが、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言ったその心にはどんな変化があったのでしょうか？

・ペトロはこのイエスとのやり取りで、どのような確信を得たと思いますか？

・わたしたちは今日イエスの言葉を聞き、従う謙虚な心はありますか？

< 8月25日（火）湖の上を歩く マタイ 14:22-33 >

(マルコ 6:45-52、ヨハネ 6:15-21)

それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖

のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたした。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拜んだ。

解説

ガリラヤ湖は 20 x 12 k m の大きさです。山の間から突然突風が吹いて、湖に大嵐を起こします。明け方にイエスが来られたとき、弟子たちはすでに長時間、湖の上にいると言われています。「わたした」という言葉は、原文のギリシャ語では「エゴ・エイミ」へブル語で神の名（ヤハウエ）、これは旧約では神が自らを現わされるとき「宣言形式」決まり文句のような言葉です。「恐れるな」も、旧約聖書全体でくり返し語られる神様からのメッセージです。まさにここでは私は神であることをイエスは弟子たちへ現されました。

イエスだと分かったペトロは水の上を歩くという大胆なリクエストをしまし

た。イエスもそれを許可し、水の上を歩きますが、恐れて沈みそうになりました。ペトロはそこでもストレートにイエスに助けを求めましたが、イエスからは叱責を受けることになりました。このやり取りの中にも、ペトロのキャラクターと、彼がイエスをどのように見ていたのか、深めることができます。

質問

・「安心なさい。わたした。恐れることはない」となぜイエスは言ったのでしょうか？

・暗闇の大波の中、ペトロはどうしてそちら（イエスの方）に行かせてくださいと言ったのでしょうか？

・ペトロがそのような大胆なリクエストをしたとき、イエスはどのような思いだったと思いますか？

・沈みかけて、イエスに助け出され、叱責を受けたペトロはどのような思いがあったと思いますか？

・このイエスとペトロとのやり取りから、わたしたちに人生に生かせる具体的なメッセージは何でしょうか？

< 8月26日（水）叱責を受ける マタイ 16:21-28 >

（マルコ 8:31-9:1、ルカ 9:22-27）

このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。人の子は、父の栄光に輝いて天使たちと共に来るが、そのとき、それぞれの行いに応じて報いるのである。はっきり言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、人の子がその国と共に来るのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

解説

この直前の場面では、ペトロはイエスのことを「あなたはメシア、生ける神の子です」と言いました。それに対して、イエスが明らかにペトロを褒めるという対話がありました。しかしペトロはこの時点で、イエスが本当にはどのようなメ

シアであるかを分かっていませんでした。ペトロが考えていたメシアというのはイスラエルの国を独立に導くような政治的、経済的なリーダーであり地上の王のようなメシアの姿を思い浮かべていたかもしれません。ペトロがイエスをいさめた言葉は間違った反応でしたが、ペトロのイエスへの思いも感じさせるものです。しかし、人間的な見方を持っていたペトロに対し、イエスは強く叱責されました。イエスについて来たい者に対しては自分を捨て、十字架を背負って従いなさいと言われました。

質問

・イエスが弟子たちへ十字架にかかり死んで復活することを打ち明けた際、ペトロは「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」といさめました。なぜそのようなことをしたのでしょうか？

・「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」その意味とは何だったのでしょうか？なぜ、ここまで強い言葉で叱責したのでしょうか？

・「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」あなたにとって神様に従う上で、今障害となることは何でしょうか？どのように乗り越えますか？

< 8月27日（木）神殿税を納める マタイ 17:24-27 >

一行がカファルナウムに来たとき、神殿税を集める者たちがペトロのところに来て、「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言った。ペトロは、「納めます」と言った。そして家に入ると、イエスの方から言いだされた。「シモン、あなたはどう思うか。地上の王は、税や貢ぎ物をだれから取り立てるのか。自分の子供たちからか、それともほかの人々からか。」ペトロが「ほかの人々からです」と答えると、イエスは言われた。「では、子供たちは納めなくてよいわけだ。しかし、彼らをつまずかせないようにしよう。湖に行って釣りをしなさい。最初に釣れた魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさい。」

解説

これは神殿税についてのイエスとペトロの対話で、マタイの福音書のみに記載されている箇所です。神殿税とは当時ユダヤ人であれば必ず納める必要があった税金でした。神殿税と訳されている元々の言葉はディドラクマ（2枚のドラクメ）という言葉で、文字通り2枚のドラクメ硬貨のことで、それが神殿税として納める金額でした。ドラクメはデナリオンと同じ価値で、1ドラクメは一日の賃金でした。神殿税のことでイエスを陥れようとした意図があったかもしれない問いかけに対して、ペトロは簡単に「納めます」と答えました。それに対して、

イエスは自分が神の子であり、本来は納める必要がないことを示されました。しかし、人々をつまずかせないために、税金を納める意志を示しました。権威に妥協をしないながらも、社会で柔軟な対応をするイエスの姿を見ることができません。魚の口の中にあるとされた銀貨とは4デナリオンの価値のあるもので、ちょうどイエスとペトロの2人分の税の金額でした。

質問

・神殿税の集める人々とペトロとのやり取りに関して、イエスの方から言い出したとあります。イエスはそのやり取りで何を感じ、何をペトロに伝えようとしたと思いますか？

・“彼らをつまずかせないようにしよう”とは、イエスのどのような考えや配慮があると考えられますか？

・最終的にペトロは実際に魚を釣りに行ったと思われませんが、銀貨を見つけ、納税したことから、ペトロは何を感じて、このやり取りから何を学んだと思いますか？

・私たちの生活にも、この個所から生かせることがあるでしょうか？

< 8月28日（金）弟子の足を洗う ヨハネ 13:1-17 >

さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分

の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

夕食のときであった。既に悪魔は、イスカリオテのシモンの子ユダに、イエスを裏切る考えを抱かせていた。イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。シモン・ペトロのところに来ると、ペトロは、「主よ、あなたがわたしの足を洗ってくださるのですか」と言った。イエスは答えて、「わたしのしていることは、今あなたには分かるまいが、後で、分かるようになる」と言われた。ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。そこでシモン・ペトロが言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も。」イエスは言われた。「既に体を洗った者は、全身清いだから、足だけ洗えばよい。あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない。」

イエスは、御自分を裏切ろうとしている者がだれであるかを知っておられた。それで、「皆が清いわけではない」と言われたのである。さて、イエスは、弟子たちの足を洗ってしまうと、上着を着て、再び席に着いて言われた。「わたしがあなたがたにしたことが分かるか。あなたがたは、わたしを『先生』とか『主』と

か呼ぶ。そのように言うのは正しい。わたしはそうである。ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。はっきり言うておく。僕は主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりはしない。このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。

解説

最後の晩餐での弟子たちの足を洗うという、イエスの特別な思いと行動が描かれた場面においても、イエスとペトロの個人的なやり取りが記録されました。よく知られているように、足を洗う行為は通常主人や師匠が行うことではありませんでした。そのため、ペトロにとってイエスのこの行動は驚くべきもので、はじめは拒否を示したようです。しかし、イエスには深い意図があったことが明らかで、このことを行わなければ、何もかかわりがないことになるかと伝えました。そこから、ペトロの反応は正反対なものとなり、今度は全身を洗ってもらえるよう懇願しました。そのことにもイエスはペトロの反応を修正しながら、自分の意図を伝えました。十字架を目の前にしながらも、理解の追いつかないペトロに対して、丁寧に応対するイエスの姿から、ペトロへの思いや、ただ足を洗うことだけでは愛の深さを考察することができます。また、“皆互いに謙遜を身に着

けなさい (1 ペトロ 5:5) ”と、この場面でのイエスの姿に重ねるような表現 (身に着けると腰にまとうは近似した表現) をペトロが残したことから、ここでのイエスとの対話がペトロにどのような影響を与えたかを深めることができます。

質問

・イエスに足を洗われることに、ペトロはどのような思いがあったと思いますか？また、イエスとのやり取りで、どのような思いの変化があったと思いますか？

・“もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる (8 節) ”とは、イエスはどのような思いで、何を伝えようとしたと思いますか？

・理解の追いつかないペトロに対しての、イエスの接し方から、何を学ぶことができるでしょうか？

・イエスに足を洗われたこと、そこでのイエスとのやり取りは、その後のペトロの人生にどのような影響を与えたと思いますか？

・イエスに足を洗われることは、あなたにどのような影響を与えてきたでしょうか？

< 8月29日 (土) ペトロの離反の予告と裏切り ルカ 22:31-34, 22:56-62 >

(マタイ 26:31-35, 26:69-75、マルコ 14:27-31, 14:66-72、ヨハネ 13:36-38, 18:15-18, 18:25-27)

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。イエスは言われた。「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」…

人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペトロは遠く離れて従った。人々が屋敷の中庭の中央に火をたいて、一緒に座っていたので、ペトロも中に混じって腰を下ろした。するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った。しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあの人を知らない」と言った。少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言うと、ペトロは、「いや、そうではない」と言った。一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」と言った。まだこう言い終わらないうちに、突然鶏が鳴いた。主は振り向いてペトロを見つめられた。ペト

口は、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。

解説

イエスとペトロとの関係における、おそらく最も大きなペトロの失敗と呼べるこの場面は、四つの福音書すべてに記録されました。実際の裏切りの場面は個人的なやり取りのために、ペトロの証言なしに記録されることはないため、ペトロが自ら証言をし、それらが初代教会にとって、そして聖書の重要な証になったと考えられます。イエスはペトロの離反を予告し、その先に立ち直るための励ましの言葉をかけました。ペトロは自分の弱さを認めることができず自信過剰な反応をしました。また、ペトロがイエスを3回知らないと言った時、イエスはペトロを見つめたことをルカだけが記録しました。言葉のやり取りはなくとも、否認の場面でイエスとペトロとの心情のやり取りがありました。この場面はペトロの失敗というだけのものではなく、イエスとペトロとの対話を見ると、起こるべきして起きたこと、そしてイエスがペトロに大切なレッスンを伝えようとしていることを考察できます。同時に、難しいことを伝えるやり取りの中での、感情の動きも深めることができます。

質問

- ・ペトロの離反を予告する際にかけて言葉から、イエスはどのような思いであっ

たと思いますか？

・イエスはこの裏切りからペトロに最も得てほしいと思ったことは何だと思いますか？

・ペトロはどのような学びや思いから、この場面を自ら証言し、記録したと思いますか？

・ペトロと同じように、あなたは自分の見えていないことを失敗によって見せられたことはありますか？またそこから立ち直ったことはありますか？そのような時、神様がどのように働き、接して下さったのでしょうか？

< 8月30日（日）復活後のイエスと ヨハネ 21:15-19 >

食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」

と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

解説

復活の後、ガリラヤ湖での再会において、イエスがペトロに話しかけた場面をヨハネは記録しました。福音書の中でこれまで見てきた場面と同様に、大切なことを伝えようとするときの呼びかけとして、イエスはペトロではなく、シモンと呼びかけました。イエスは少し挑発的な感じで他の人たち以上に自分を愛しているかとペトロに問いかけました。ペトロは「はい、主よ」と肯定的な応答と共に、自分がいかに愛しているかではなく、愛していることはイエスが知っていると答えました。その応答として、彼の羊を世話するようにイエスはペトロに伝えました。イエスはそれを3度繰り返しました。細かい表現や言葉使いをヨハネは変えていますが、それらは他の箇所でも見られるヨハネ的な表現方法で、3回の

表現に大意の違いはないようです。イエスの3回の問いかけは、ペトロの3回の否認に重なるように感じますが、イエスとペトロのやり取りはいつもそうであるように、これらのイエスからの問いかけに対して、イエスの真意が見えずペトロは困惑しているように見えます。イエスは最後に、特別なことを伝えるときに注意を引くのによく用いた表現である「はっきり言うておく（新共同訳：原文はアーメン、アーメン）」を使い、この場面をまとめたと考えられます。それは、ペトロがこれからは行きたいところではなく、行きたくないところに行くこと、そして、改めてイエスに従うことでした。

質問

・イエスがペトロをシモンと呼びかけるのにはどのような意味があったと思いますか？

・イエスの自分を愛しているかという問いかけは、ペトロに何を理解してもらいたいという思いがあったと思いますか？また、ペトロに対してどのような個人的な思いがあったと思いますか？

・ペトロはこのイエスとの対話でどのような気持ちであったと思いますか？また最終的に何を学び得たと思いますか？

・この場面での神様へのあなたへのメッセージは具体的に何だと思いますか？